

読者のひろば

外国人捕虜の
歴史紡ぎ直す

高谷和生59歳公務員
(玉名市)

10月上旬、一人の英国人が来日した。目的は父親が戦時中に収容された熊本市東区三郎塚にあった「福岡俘虜収容所第一分所」を訪ね、当時の足跡をたどること。

同分所は1942年11月、熊本分所として開設され、翌年11月までの1年間に、太平洋戦争緒戦のシンガポール戦等で捕虜となった連合国軍捕虜を収容していた。その後、福岡に移転し、敗戦時の収容人員は米・英人はじめ381人、収容中の死

者は147人だという。

敗戦と同時に捕虜収容所関係の文書は軍により焼却され、その後、日本政府

はこの歴史的事実を記録する努力を怠ってきた。

熊本市の戦争遺跡を調査中、労働力が不足した軍が「健軍飛行場造営に英国人捕虜を使役した」事でも捕虜を見かけた

など幾つかの証言を聞いた。あらためて聞き取りを始めたが、断片的な情報が多く、場所の特定にも結びついていない。時を同じくした10月15日、米軍元捕虜と家族が岸田外相と面会した。民主党政権が2010年に始めた招へい事業で、政

権交代後の実施は初めてである。「侵略の定義」

など先の大戦をめぐる持論を展開する安倍政権下

での事業継続に米側も関心を寄せていたが、外相

は会見で元捕虜の訪日継続に意欲を示した。

戦争の記憶が確実に埋もれつつある。今回の来

熊を新たな「記憶の糸口」として紡ぎ直し、次の来

日に向け、歴史的事実の確認を進めたい。

「読者のひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投

投稿される方へ

稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。

- あて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者のひろば」係
- ②ファクス 096(363)1268
- ③Eメール

hiroba@kumanichi.co.jp